

## 6班 ワークショップ内容

平等	住民の欲求がどこにあるかを見極める。
	判断は平らである。
	上越市は「山」あり「海」ありとても広い地域だが、一極集中でなく「広く」特性を個性を取り入れたい。
	情報は地域のニーズを的確に得ているか。
	平等主義 人権の尊重
地域資源 歴史・文化	豊かな自然、歴史を生かして
	上越市らしさをくみ入れていきたい。
	自分の住んでいる地域資源を活用
	各地域の独自性を尊重したしくみ
	地域の卓越した「人」をどのようにして発掘していくか？
人	市民が元気で生活できるようゆとりある町づくり
	若い人のエネルギー
	女性のパワー
	企業誘致など若者の働く場の確保
	地域の人と人のつながり
	各地区の「特徴」を活かした町づくりを住民主体で作っていきたい。
	地域住民の声をできるだけ反映させ住みよいまちを目指すこと
	全員が参加できる（老若男女）
	市の大事な方向決定に市民の論議をおこし市民の意思が反映する決定を
	市民誰もがまちづくりに参加できるしくみ
	いろいろな世代や立場の人たちの考え方や声
	市民の視点からものごとを考える。
	まちづくりに市民のもっている知恵を活用
	みんなで「やろう！！」という意識を
	住民の声や希望をどのように吸い上げるか。また、どんな形で声を出してもらうか。
企画の段階からの市民参画	
住民全員が役割をになう（参画できる）。	
住民のニーズ	隣接市町村への配慮
	子どもたちが安心して住める。
情報	情報を共有化する（行政と市民）。
	情報の公開（施策の実施や進捗状況などを市民に伝える、知らせる）
	住民の共通認識
	情報の共有化
	情報を多く共有できるようにする。
拠点となるような大きなコミュニティセンターがほしい（情報がつまった場所）。	
協働	行政と住民の協働（もちつ、もたれつ）の関係
	「協働」について ことばの持つこち良い響きだけで解釈されていないか。正しい協働で作りあげていく。
約束	一定のルール（まちづくりを進める上での統一した1つの約束）
評価（途中経過の評価も必要）	財政の明確化
	事業の評価（予算の使い方や費用対効果など）

発表より補足

- ・一番大切なのは「市民の声」であり、その「市民の声」をどのように活かしていくか  
活かす仕組み、活かす過程が大事
- ・旧14市町村のそれぞれの特性、資源を活かしたまちづくり  
大切なのは「情報の公開」  
「行政 市民」だけでなく、「市民 行政」「市民 市民」も必要であり、共有も必要
- ・一定のルール、約束事がまちづくりを進めていくうえで必要
- ・事業の評価 終わった後の評価も大事だが、途中の進捗状況の評価も大事
- ・住民のニーズとして、その事業が本当に必要かどうかを確認するのも大事
- ・住民が参加しやすい仕組み
- ・住民の声
- ・ひとつのまちづくりの単位としての町内会 女性が町内会に参加しにくい
- ・男女共同参画は一部だけの声で、全体に浸透していないのではないか
- ・女性自身も女性として認められない部分が長い間の風習にある
- ・まちづくりについて、素晴らしい人材は多いが、町内会のリーダー等にはなりづらいのではないか
- ・町内会は役員が仕事を分担するだけでなく、住民全員が何らかの形で役を担うようにしていくことが、これからは大事
- ・今日のまちづくりにはいろいろな形がたくさんあり、町内会よりも自分がやりたい団体に入って活動できる状況であるので、町内会の中で自分の役割が発揮できるような仕組みを考えていく必要がある。
- ・町内会がまちづくりに参加しやすい条件をつくっていく
- ・上越市は大変広域であり、地域の中での風習やそれまで決められてきたことには多少の違いはある。この違いをカバーしていくことを考えるのも必要
- ・「人と人との関わり」が一番大事  
突き詰めていくと、男女共同参画や人権にまでいくのではないか